

**【第312号 紙面案内】**

第2面……常任理事会報告、理事会報告、通常総会報告

第5面……第77回全国研究大会関連

第8面……第78回全国研究大会のお知らせ

第10面……事務局より

※今回から8月、11月、2月、5月の年4回発行になります。

学会会長に就任して

日本マネジメント学会 会長 亀川 雅人 (立教大学)

日本マネジメント学会の存在意義は何か。日本の経営学者の多くは、90年以上の歴史を刻む日本経営学会に所属する。学問の発展が知識体系の拡がりや深化であるとすれば、多様な学会の誕生は、経営学の発展を示している。経営関連の諸学会は、経営学の研究目的や対象、そして研究方法等が多様化する中で、それぞれの趣意をもって設立されてきた。設立趣意が異なれば、研究目的やテーマが異なるのは当然である。

私どもの学会は、創立者である故山城章先生の「実・学一体の実践経営学」という理念に基づき、経営実践を洞察する「経営教育」を研究・実践する学会である。経営教育は、単なる経営学教育に矮小化されず、経営実践の場に問題を発見し、これを解決する実・学一体の研究活動が経営教育である。この活動主体となるのが本学会である。

「実践経営学」と「経営教育」にアイデンティティを有する学会であるが、その趣意を説明することを省き、多くの学徒に門戸を開放するために「日本経営教育学会」という名称を改め「日本マネジメント学会」に変更した。それは実・学一体の経営学の存在意義を広めることに目的があった。

しかし、「マネジメント」という一般的な概念を使用したことで、本学会固有の存在意義は希薄化しつつある。私どもは、統一論題や自由論題の選定、研究部会などの活動において、その趣意を反映しなければならない。経営学研究者は、ともすると研究のための研究に終始し、目的と手段の転倒も散見される。経営学の意義は、研究者の興味や関心にあるのではなく、経営実践の場に求めねばならない。本学会が、「実・学一体」という視座を失わないことが重要である。

私が本学会の会長に選任された役割は、効率的な学会運営のためのマネジメントと原点回帰のための創造的破壊にあると考えている。3年間の任期で実現できることは限られているが、他の学会と差別化された存在意義を再度確認することで、魅力ある学会にすることができると考えている。学会は会員各位の実務や研究に貢献できなければ意味がない。しかし、同時に会員各位の積極的な働きかけがなければ学会の発展は期待できない。会員各位のご支援とご協力をお願いしたい。

常任理事会報告

1. 日 時：平成 30 年 5 月 27 日(日) 14:00 ～ 15:30
 2. 場 所：株式会社山城経営研究所 会議室
 3. 議 題：
 - (1) 第 77 回全国研究大会について
日本大学商学部において 2018 年 6 月 23 日(金)から 25 日(日)まで開催される第 77 回全国研究大会の準備状況について、報告がなされた。
 - (2) 平成 29 年度活動報告及び収支決算について
平成 29 年度の活動報告・決算報告があった。監事より収支報告が適正であるとの監査報告があった。
 - (3) 平成 30 年度活動計画及び収支予算について
平成 30 年度の活動計画・予算報告があった。
 - (4) 会員の入退会の承認について
入会(個人 22 名)、退会(個人 48 名)が承認され、合計(個人 587 名、法人 5 社)となったことが報告された(平成 30 年 5 月 27 日現在)。
 - (5) その他
常葉大学の文載皓先生より、学内事情により第 78 回全国研究大会日程の変更が提案された。常葉大学静岡草薙キャンパスにおいて 10 月 26 日(金)から 28 日(日)まで開催されることが了承された。またその準備状況の報告がなされた。
学会改革を考えなければならぬ時期にきており、ご協力を賜りたいとの説明があった。
- 以 上

理事会報告

1. 日 時：平成 30 年 6 月 22 日(金) 17:00 ～ 18:30
2. 場 所：日本大学 商学部 本館 3 階 31 会議室
3. 議 題：
 - (1) 平成 30 年度年次総会の件
平成 30 年度年次総会の準備状況についての報告がなされた。
 - (2) 平成 29 年度活動報告及び収支決算の件
平成 29 年度活動報告及び収支決算が報告され、了承された。

- (3) 平成 30 年度活動計画（案）及び収支予算（案）の件
平成 30 年度活動計画（案）及び収支予算（案）が提案され、了承された。
- (4) 各委員会及び各部会からの報告の件
各委員会及び各部会から平成 29 年度の活動報告及び平成 30 年度活動計画が報告された。
- (5) 理事の選任の件
選挙管理委員の指名について、三選禁止規定に沿えば今回の選挙管理委員の指名が困難となる。そのため、今回の選挙については、会員の中から選挙管理委員として、竹内進氏を委員長とし、清水健太氏、藤井辰朗氏の計 3 名を指名することとなった。
- (6) 会員の入退会の承認の件
入会（個人 6 名）、退会（個人 1 名）が承認され、合計（個人 592 名、法人 5 社）となったことが報告された（平成 30 年 6 月 22 日現在）。
- (7) 山城賞（本賞）の発表
受賞者柴田仁夫先生に賞状と記念品を贈呈することとなった。
- (8) その他
なし。

以上

通常総会報告

1. 日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）
2. 場 所：日本大学 商学部 2 号館 2 階（100 周年記念講堂）
3. 議 題：
 - (1) 平成 29 年度活動報告及び収支決算の件
第 75 回全国研究大会（東洋大学）、第 76 回全国研究大会（広島経済大学）、国際委員会、各地域部会、各研究部会などの諸報告がされた。続いて収支決算報告及び監査報告がなされた。これらの報告内容はすべて承認された。
 - (2) 平成 30 年度活動計画（案）及び収支予算（案）の件
第 77 回全国研究大会（日本大学商学部）、第 78 回全国研究大会（常葉大学）、国際委員会、各地域部会、各研究部会などについて説明があり、続いて収支予算が示され、共に承認された。
 - (3) 山城賞授与式

柴田 仁夫 氏に山城賞が授与された。

(4) 理事選任の件

会長より理事会決定の説明があり、選出の議題に入った。3名の理事選出選挙管理委員（竹内進氏、清水健太氏、藤井辰朗氏）と10名の選挙幹事が選出され、理事選挙が実施された。

(5) その他

会員より、質疑応答時間を十分確保してほしいという提案があった。

以上

新会長の決定

年次総会において、理事選挙が行われ、理事が選任されました。翌日に新理事会が開催され、会長、総務委員長、組織委員長が決まりました。

会 長	亀川 雅人（立教大学）
総務委員長	董 晶輝（東洋大学）
組織委員長	松村 洋平（立正大学）

新理事会報告

1. 日 時：平成30年7月15日(日) 13:00～

2. 場 所：山城経営研究所

3. 議 題：

(1) 学会新体制の承認について

- ① 2名の副会長が承認された。
- ② 15名の常任理事が承認された。
- ③ 会計監事2名が承認された。
- ④ 本部幹事8名が承認された。

(2) 第78回全国研究大会について

第78回全国研究大会（常葉大学・草薙キャンパス：平成30年10月26日～28日）の準備状況についての説明があった。

(3) その他

なし。

(4)

◇◇第 77 回全国研究大会 企業見学記◇◇

小松 智子（立教大学大学院）

今大会の企業見学は、6月22日、東京都世田谷区三軒茶屋の株式会社金冠堂本社で行われた。同社は、昭和元年に創業され現社長は三代目、二代目が会長を務めるファミリー企業である。ロングセラー商品である家庭薬「キンカン」の製造・販売を始めてから90年以上の歴史を持つ。

冒頭のご挨拶のあと、動画による企業紹介と生産設備紹介が行われた。その後、常務取締役より企業概要と歴史についてお話をいただき、薬剤師の社員の方からは、「キンカン」に関するプロモーションについて説明が行われた。



油屋常務取締役による金冠の説明



会場の様子

100年企業に向け、「すべてはヒトと健康のために。伝統と未来への挑戦」をスローガンに掲げる同社の工場は、埼玉県本庄市にあり、販売されているキンカンはすべてメイド・イン・ジャパンである。全ての工程がオートメーション化されているものの、熟練工による徹底した品質管理と安全管理により、創業時からの有効成分が守り続けられている。

多くの方に慣れ親しまれているCMソング『キンカンのうた』は、昭和30年から使い続けられ、商品の魅力を全世代に浸透させるうえで大きな役割を果たしている。加えて近年は、Webプロモーションを取り入れるなど、時代に応じた広告宣伝を展開している。

個人的に印象的だったのは、伝統を守り続けながらも、挑戦を恐れず攻める同社の経営姿勢である。少子高齢化が進む日本において、現状維持では会社は衰退してしまうという認識から、大きな賭けをしないまでも、時代のニーズに合わせた変化と課題解決に取り組んでいる。90年以上愛され続ける商品を事業の核に据え、新しい商品も開発し続ける同社が、地域に貢献しつつ、更にもどのように歴史を重ねていくのか、大変興味深く感じた。

株式会社金冠堂の皆さまの丁寧なご説明のお陰で、日本の長寿ファミリー企業を知る大変貴重な機会となった。心より感謝申し上げるとともに、今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。

◇◇第 77 回全国研究大会参加記◇◇

田中 克昌（日本経済大学）

2018年6月22日(金)～24日(日)、日本マネジメント学会第77回全国大会が日本大学 商学部において開催された。統一論題は「規制産業におけるイノベーションマネジメント～医療・教育分野の新潮流～」であった。

23日午前の統一論題セッション1では、高橋淑郎先生（日本大学）から、「非営利組織としての病院経営」について課題提起が行われ、医療法人社団 元気会横浜病院の北島明佳理事長から「戦略的病院経営への変革のプロセス」について発表が行われた。さらに、3病院の理事・事務長も加わったシンポジウムでは、フロアからの質問も含め、医療経営のイノベーションについて活発な議論が展開された。

午後からは、6本の自由論題報告と、国際セッション、山城賞受賞論文発表が行われた。各報告において活発な議論が行われ、筆者（田中）も自由論題報告において発表させていただき、諸先生方から大変有益なコメントをいただくことができた。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。また、その後の会員総会では、山城賞の受賞者である柴田仁夫先生に対する表彰式が行われた。夕刻には、特別講演として、日本電信電話株式会社の是川幸士理事からNTTの事業戦略として健康・医療を最先端のICTによって支える多様な取り組みについてご報告をいただいた。

24日午前に行われた統一論題セッション2では、社会福祉法人恩賜財団福井県済生会病院の登谷大修院長から、病院における経営改革についてご報告をいただき、続く、統一論題セッション3では、児玉先生（日本大学）からダイナミック・ケーパビリティとイノベーションに関してご報告が行われた。いずれのセッションにおいても、具体的な事例や経験に基づく報告が行われ、大変示唆に富む内容であった。

午後には、統一論題セッション4として、「教育の破壊的イノベーション」をテーマに常盤祐司先生（法政大学）、斎藤正武先生（中央大学）からのICTを活用した教育改革についてのご報告を受け、シンポジウムでは活発な議論が行われ、無事閉会となった。

本大会は、医療・教育分野という非営利組織においても、今日の環境に適合した「マネジメント」と、環境変化を乗り越えるための「イノベーション」への取り組みが重要であることを実感できた有意義な大会となった。

最後になりましたが、本大会の運営にご尽力いただいた実行委員長の児玉充先生をはじめ日本大学の各先生方、ならびに学生スタッフの皆さんに厚く御礼を申し上げます。

◇◇山城賞の受賞にあたって◇◇

柴田 仁夫（埼玉学園大学）

この度、思いがけなく山城賞という日本マネジメント学会（旧日本経営教育学会）の創設者である山城章先生のお名前を冠する賞を受賞することができ、自分のまとめた論文が本学会で高い評価を頂いたこと、心から嬉しく思っています。また本賞の受賞は2004年に辻村宏和先生が受賞して以来、2人目と伺いました。実は最近では当初の受賞の喜びよりも、日に日にその重みと責任を感じるようになってきています。

山城賞を頂きました拙著『実践の場における経営理念の浸透』（創成社）は先般の学会での受賞記念講演でもお話しさせて頂きました通り、埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程で記した博士論文をまとめ直し、加筆・修正を加えたものです。博士論文は付録も含み元々A4で420頁から構成されており、それをA5で256頁（結果的には300頁を超えてしまいましたが）にまとめ直すのがとても大変な作業でした。

何故博士論文のテーマを「経営理念」としたのか。当時私は横浜市中心企業支援センターに勤務しながら社会人学生として修士課程から博士課程に進んでいました。私の7年間の同機関での業務内容は、創業相談を含む経営相談全般や技術相談の専門家へのエスカレーション、セミナーの企画・運営、医工連携や産学連携の担当などで、私が直接受けた相談だけでも数千件ありました。このように様々な業務を担当しましたが、なかでも最も注力したのが「横浜型地域貢献企業認定制度」という横浜市内でCSRを実践する企業を発掘し、一定の規



山城賞を受ける柴田氏
(2018年6月23日 日本大学商学部100周年記念講堂)

格の基に認定する事業でした。この事業の設計には携わりませんでしたが、2018年現在で11年目に入った本事業の運営に5年間携わったことで、本当に多くの横浜市内のCSR実践企業の方々と知り合うことができました。大企業も含め、おそらくこの事業だけで実際に認定した企業数の3倍以上の企業の社長（文字通り経営者です）とお話する機会を得たことで、CSRを実践する企業の考え方はどこか共通しているな、とヒアリング調査の段階で感じていました。ただ、ただこうした考え方、すなわち経営理念についてはこれまでに多くの先生方が研究されており、今更新しい切り口が見つけれられるのか、本当に随分悩んだことを今でもよく覚えています。そんな中、本研究の端緒となったのが田中雅子先生の『ミッションマネジメントの理論と実践』（2006）との出会いであり、高尾義明先生、王英燕先生の『経営理念の浸透』（2012）との出会いでした。田中先生の御著書やその他の研究から、理念は実現（浸透）してこそ意味があるというその考えを自分の多くの経験と重ね合わせ、高尾・王両先生の研究からは、これを自分の専門分野であるCSRや中小企業を中心に研究できないかと考えたのが博士論文をまとめるきっかけとなりました。田中先生、高尾先生、王先生には今でも感謝の念に堪えません。

「経営理念の浸透」については企業の実践の場で表面には出てくることは少ないですが、企業の課題の根幹には必ずといっていいほどこのテーマが関係してきます。企業においては実践の場で何ができたか、が全てを中心となります。今後、この研究を更にどのように深めていくか、それが山城賞を受賞した私に与えられた大きな課題だと思っています。

第78回全国研究大会のお知らせ

第78回全国研究大会を以下の要領で開催します。皆様奮ってご参加下さい。
統一論題、詳細なプログラム、参加方法は開催校より送られます。

日 時：2018年10月26日(金)から28日(日)

場 所：常葉大学 静岡草薙キャンパス

(〒422-8581 静岡市駿河区弥生町6-1)

◇◇北海道・東北部会からのお知らせ(報告者募集)◇◇

北海道・東北部会長 大平 義隆 (北海学園大学)

下記の通り、平成30年度北海道・東北部会を経営哲学学会東北部会と合同で開催いたします。つきましては、報告者を募集いたしますので、ご希望の方は杉田までご連絡ください。締め切りは10月20日(土)といたします。ご応募をお待ちしております。

日 時：平成30年12月15日(土) 13時から

場 所：TKP ガーデンシティ仙台 (JR 仙台駅から徒歩2分)

問い合わせ先：副部会長 杉田 博

(0225-22-7716 / hsugita@isenshu-u.ac.jp)

◇◇経営理念研究部会開催のお知らせ◇◇

経営理念研究部会長 村山 元理 (常磐大学)

いよいよ経営理念研究部会が活動を開始します。記念すべき第1回は柴田 仁夫 氏をお招きいたしまして、山城賞(本賞)を受賞された『実践の場における経営理念の浸透』を中心にお話いただきます。さらに、経営理念研究の基礎知識から最近の経営理念研究のトレンドまで取り扱い、初学者の方にもご専門にされている方にも実りある部会にしたいと考えております。

以下の要領で部会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

日 時：2018年9月15日 15:00～

場 所：駒澤大学 駒沢キャンパス (東京都世田谷区駒沢 1-23-1)

種月館(3号館)2階 3-210 教場

15:00 開会の辞

経営理念研究部会長 村山 元理 氏 (常磐大学)

15:05～17:00 特別セッション「実践の場における経営理念の浸透」

登壇者：柴田 仁夫 氏 (埼玉学園大学)

司 会：村山 元理 氏 (常磐大学)

17:00 閉会の辞

経営理念研究部会長 村山 元理 氏 (常磐大学)

17:30 懇親会(当日ご案内いたします)

会 費：1,000 円

懇親会費：3,000 円

お問い合わせ：小野瀬 拓（駒澤大学） onose@komazawa-u.ac.jp

★次回の部会は 2019 年 2 月 9 日(土)に、東京お茶の水の企業家ミュージアムで開催します。
どうぞお楽しみに。

以上

◇◇国際委員会からのお知らせ◇◇

委員長 鈴木 秀一（立教大学）

韓国経営教育学会（Korea Association of Business Education）との報告者交換プログラムに基づき、下記の通り、派遣報告者を募集いたします。報告論題は、特に経営教育に限らず経営学全般に関連するものであれば結構です。口頭発表は英語で行います。応募者多数の場合は、国際委員会で選考し派遣者を決定します。

派 遣 先：2018 年度 韓国経営教育学会 秋季全国大会（慶北大学、大邱市）

派 遣 日：2018 年 11 月 3 日(土)

応募資格：本学会員（大学院生を除く）

応募方法：氏名、所属、報告テーマ、報告要旨（日本語 300 字以上）をメールにて
担当者（国際委員・文）へ送付してください

送 付 先：e-mail: 文載皓（jhmun@fj.tokoha-u.ac.jp）

締 切 日：2018 年 9 月 25 日(火)

備 考：派遣報告者には旅費補助として 5 万円を支給予定

※ご不明な点は、国際委員・文載皓（jhmun@fj.tokoha-u.ac.jp）

もしくは国際委員会委員長・鈴木秀一（shuichi@rikkyo.ac.jp）までお願いします。

**平成30年度及び平成29年度会費未納の方は
至急納入をお願いします**

学会規則第 6 条により、各年度の会費の納入期限は 6 月 30 日となっておりますが、納入期限を過ぎてもまだ納入されていない会員の方が多数見受けられます。

つきましては、平成 30 年度会費の未納の方及び過年度（平成 29 年度）会費未納の方は、それも合わせて、至急会費の納入をお願い致します。

学会の各種活動の財源は、会員の皆様方の会費のみと言っても過言ではありませんので、円滑な学会運営のためにも、皆様方の切なるご協力と迅速な対応をお願い申し上げます。
なお、会費の納入方法は、次のいずれかです。

①ゆうちょ銀行への振込の場合（払込取扱票を利用すれば、振込手数料は学会負担）

口座番号：00150-7-535064

②みずほ銀行への振込の場合

飯田橋支店 普通預金口座 1388418

③他の金融機関からゆうちょ銀行への振込の場合

〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0535064

住所変更・勤務先変更等のご連絡のお願いについて

勤務先・連絡先変更や住所変更等の異動情報がある場合は、速やかにメール等により事務局までご連絡をお願い致します。

異動情報のご連絡を頂けないと、会員名簿の更新、会報・機関紙のご送付、会員データの更新・維持管理に大変支障が出ますので、会員の皆様方のご協力をお願いします。

会員の最新刊著書をご紹介します

(1)佐々木利廣編著／認定特定非営利活動法人 大阪 NPO センター編

『地域協働のマネジメント』

株中央経済社 2,700 円＋税

(2)粟屋仁美著『再生の経営学 自動車静脈産業の資源循環と市場の創造』

株白桃書房 2,800 円＋税

(3)高垣行男編著／當間政義・城間康文著『経営学 I - 基礎理論編 -』

株五絃舎 2,200 円＋税

※会員の皆様の新刊著書をご紹介しますので、事務局へ献本（1冊）をお願い致します。

メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください

学会ではタイムリーな情報を皆様にお伝えするメールマガジンを発行しています。学会にメールアドレスを登録されていない会員の方は事務局にご連絡をお願いします。また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

訂正

会報 306 号 第 2 面に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

現：平成 28 年度活動計画（案）及び収支予算（案）が提案され、了承された。

正：平成 29 年度活動計画（案）及び収支予算（案）が提案され、了承された。

編集後記

今号より会報も新体制となり、年 4 回の発行になります。さらに充実したコンテンツを皆様にお届けできるよう務めてまいります。よろしくお申し込み申し上げます。

さて、第78回全国研究大会は、常葉大学静岡草薙キャンパスにおいて10月26日(金)から28日(日)に開催されます。会員の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

(会報委員会委員長：小野瀬 拓／副委員長：清水健太)

発行 **日本マネジメント学会**
(旧称：日本経営教育学会)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-36
S&Sビルディング3F
株式会社山城経営研究所内 (担当：武市)
TEL 03-6674-1836 FAX 03-5228-1233
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>
印刷 株式会社ドットケイズ TEL 03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp